



大和田小学校 ロボットプログラミング教室

西淀川区・大和田小学校で実施された、子ども向けのロボットプログラミング講座を取材しました。この講座は、2020年から市内の小学校でロボットプログラミングの授業が必修化されることを受け、子どもたちにロボットプログラミングに親しんでもらう事を目的に、生涯学習ルーム・区役所・地域が協力して企画されました。6月から11月まで月1回、4年生から6年生の10名が、全5回のプログラムで様々な課題に挑戦していきます。講師の西田先生は大和田地域にある淀中学校の元校長先生で、地域でも多数プログラミングの講座をされています。生涯学習ルームは講座全体の組み立てや広報、学校との調整を担当しました。

講座は、区役所の協力で子どもたちにも馴染みのある、おもちゃの「レゴ」社から発売されている、車型の教育用ロボット「レゴ マインドストームEV3」とタブレットを使って進めます。



にしだ よしみつ
講師:西田 好光 先生



6月16日に開催された第1回では、基本的な動作の確認をしながら、ロボットへ送る指示(モーターを動かす「秒数」「パワー」「回転数」)の違いによるロボットの動きの違いを観察し、「ロボットを決められた距離ぴったりに進めるためにはどのような指示を送ればよいか」という課題に挑戦しました。二人一組になり、どのような方法が良いか相談します。タイヤの直径から円周を求めて必要なタイヤの回転数を求めたり、とにかく回数を重ねて近づけていったりと、様々な方法で取り組みました。

こうした、「なぜそうなるのか」「どうすれば上手く行くのか」を考えるために必要な「論理的思考」を育むのも、ロボットプログラミングを学校の授業で取り組む大きな狙いの一つだそうです。今後の講座では、ロボットに付属されているカラーセンサーや超音波センサーを使ったより本格的なプログラミングも予定されています。「自分自身で考え、問題を解決する力を身につけて色々なことに応用できる子どもになって欲しい」と、講師から講座のねらいを語っていただきました。いろいろと試しているうちに子どもたちがどんどん夢中になっていく様子が印象的でした。取材にご協力いただいた大和田小学校の皆さん、ありがとうございました。

WATCH! 「地域で楽しく」住吉区・住吉小学校 ～井戸端カフェ～

6月19日(火)の昼下がり、住吉区・住吉小学校の井戸端カフェ「地域で楽しく」を訪ねました。前日には、大阪での観測史上最大と言われる震度6弱の直下型地震が発生。余震の不安があるなか、小学校の会議室には三々五々と受講生が集まって来られます。校区代表の柴谷照子さんから、今年のテーマ「今を楽しく」について提案があり、会場を二つのグループに分けて、それぞれに「いま関心があること」「生涯学習でやってみたいこと」など何でも自由に付せんに書き出しながら、井戸端カフェがはじまりました。

●ゆるりと始まったおしゃべりですが、どちらのグループもどんどん熱が入ります。「生涯学習をどうしていきたいか」「工夫できること」「ふだん不安なこと」「防災について」など、思い思いのテーマが出され、「生涯学習の場は人とのつながりを感じられる場。地域のつながり、助け合いの場」「自分も含め、みんな歳を取って一人暮らしまも多い」「本当に困った時、お互いさまの関係があれば安心。生涯学習は、そんなつながりづくりの場」など意見が交わされました。地震もあり、顔の見える関係が何よりも地域の安心につながることを、身を持ってお話されるので説得力があります。また「ルーム事業の情報を区の広報に載せて、もっと広く周知できないか」など、自分たちの取り組みを広げていくための手立てや、「子どもへの何気ない声かけが難しい時代。学校に入りする私たちが子どもたちに顔を覚えてもらい安心してもらえれば、親御さんたちにもつながれる」など、ルームに集うメンバーならではの発想で新しいつながりをつくるための提案もありました。



●講座が終わり、ふりかえりの時間。今回はじめて参加された松島さんは、長らく続けたお仕事を退職し「誰かの役に立ちたい」との思いで、この講座のお世話役を担当されることになったそう。同じく初参加の山口さんは、PTA活動に携わる中でいろんなことを手作りするのがお得意で、今は様々なアイデアを活かしながらルームの活動に関わっておられる、若手のホープ!さんです。

●新しくルームに関わってくれる方との出会いは、ルーム活動の広がりと、自分たちの新たな学びにもなる、と柴谷さん。「推進員は、“自分が主”になるのではなく学ぶ人を応援する立場」「いろんな人の出会いが、地域のつながりになり、地域の活性化になる」「これからも人の出会いを通じて、生涯学習の新しい風を起こしたい」とのこと。学ぶ喜びの根っこに色々な人の出会いがあることを、あらためて感じるお話をでした!

住吉小学校「地域で楽しく」の皆さん、ありがとうございました。

“みんながつくるみんなの学校” 大空小学校

～オープン講座を訪ねて～

2018年6月、梅雨入り前の強い日差しと心地よい風に吹かれ、住吉区・大空小学校を訪ねました。ドキュメンタリー映画『みんなの学校』で紹介された大空小は、「すべての子どもの学習権を保障する」ことを教育の柱に、子ども、センター(保護者)、教職員、地域が一体となって共に学び育つ取り組みを実践する公立の小学校です。



はぐくみネットコーディネーターと
Oさん(地域の方)

●教頭先生からは「外から見るのはではなくて、教室に入って子どもたちと一緒に過ごしてください」と助言をいただき、さっそく教室へ。子どもたちは慣れている様子で、私たちの顔や名札をじっと覗き込み、挨拶を交わします。3時間目、1年「こころ」組は算数の時間が始まりました。授業には、はぐくみネットや地域の方が入り子どもたちの隣で様子を見守っています。なかなか落ち着かない子も付き添われながら、自分のペースで先生の話に耳を傾けます。大空小ではほぼ毎日、地域の方が学校に通い、「できるときにできる人が無理なく楽しく」様々な形で子どもたちに関わっておられます。

●午後はいよいよオープン講座の始まりです。大空小学校独自の教科「ふれあい科」の学習の一つで、子どもも大人も、ともに学び合う楽しさを味わうことを目的に取り組まれています。センターや地域の方、卒業生や教職員が「教授」になり、ふだん学べないことにみんなが挑戦します。今回は、4~6年生を対象に11講座が行われ、「少林寺拳法」「ジュニアジャザサイズ」「平和な世界をつくるには」「グラウンドゴルフ」など多彩。

子どもたちは、事前に希望した講座に集まり、教授のお話を耳を傾けます。「防災ゲーム」は、はぐくみネットコーディネーターが教授に。災害時の困りごとに役立つクイズをチーム対抗で正解を競います。子どもたちの

↑「防災クイズ」の様子

目は真剣そのもの!「韓国 の楽器を演奏しよう」では、大空小の教職員が民族衣装に身を包み、民族楽器の演奏指導を行います。やっぱりチマ・チョゴリは大人気ですね!「私も…」と次々と着付けていると、あっという間に講座は終了です!



↑「韓国の楽器を演奏しよう」の様子

●にぎやかな帰宅の時間。午前の授業では笑顔の少なかった1年生のT君。そこへ通りかかったOさん(地域の方)を見つけ「Oさん、おったんや～～!」、T君の表情がぱッと明るく晴れて満面の笑顔に! T君はOさんのことが大・大・大好きなようです。毎日大空に通うOさんにお話を伺うと…

「大空に通うようになって8年くらい。朝、子どもたちが落ち着くまでが一番大変かな。しんどい時もあるけどやめられない。子どもたちと接してると本当におもしろくて。毎日同じ子に会ってるはずなのに、毎日顔が違う。一瞬一瞬で子どもたちの表情がかわっていく。おもしろくてね、やみつきなの」

●たった半日ですが、いろんな出来事を子どもたちと共に過ごし、帰るころにはほんの少し「みんなの学校」の一員になれた気がしました。はぐくみネットコーディネーターのみなさま、大空小のみなさま、ありがとうございました!

噂のインストラ!

～大阪市生涯学習インストラクターの活動紹介～

黒川愛子さん

ブラインドダンス「サークル・アイ」

黒川さん(右)と
Kさん(左)



●6月2日(土)、旭区民センターでの「サークルアイ・ダンスパーティー」を訪ねました。迎えてくださったのは、大阪市生涯学習インストラクターの黒川愛子さん。生涯学習ルームなど地域の社交ダンスサークルで活動されており、このダンスパーティーでは、関西一円から集まつた、視覚障がい者と晴眼者が社交ダンスを楽しんでいます。

●ダンスの合間に、ブラインド(視覚障がい)の方にお話を伺うと、「ダンス歴は15年。こんなダンス教室は他にないから、遠方の人も参加している」「私はもうすぐ76歳。もっと年上の人もたくさんいるのよ」「黒川さんに背中を押されダンスをはじめた。もっと早く出会いたかった」と気さくにお話してくだり、踊りのリードがとても上手な男性・Kさんのことも教えてくださいました。



●普段は別のところで活動しているKさんは、黒川さんに誘われてパーティに参加するようになり20年。ブラインドの方とペアを組むと、自分にとって新しい発見がたくさんあるのだそう。普段は、相手よりも先走りがちなリードも、ブラインドの方とのペアでは、手やからだ全体でリードし、身体も気持ちも離れないように踊ることが大切で、自分自身のステップアップになっているとのこと。「相手は見えていないかもしれないけれど、自分は相手の目を見て踊るよう心掛けています。相手にも伝わっていると思います」とKさん。「ブラインドダンスの取り組みを続ける黒川さんは、本当にすごい人!」とも。

●黒川さんがこの取り組みを始めてほぼ20年。背筋を伸ばし優雅に踊る社交ダンスは、踊るその人の気持ちを前向きにしてくれると言います。最高年齢は92歳。「大病を患った人も、ここに来れば気持ちも体もほぐれて帰って行くのよ」と黒川さん。障がいのあるなし、年齢を問わず、ダンスを楽しむしなやかで凛とした背中、はじける笑顔が素敵なサークル・アイの活動。ますます目が離せません!

パーティは毎年6月と12月の第1土曜日。社交ダンスを楽しみたい視覚障がい者&ボランティアを常時募集中!!